

鹿児島県離島振興協議会  
平成30年度 アイランドキャンパス事業  
成果報告書

一域学連携による「教育の島づくり」の実践一  
～地域・大学両者が知見を教え合うプラットフォーム「えらぶ島大学」の実施  
を通して～

慶應義塾大学  
長谷部葉子研究室

#### ・事業目的

地域と大学両方の立場から学び合いの場を形成することにより、口永良部島における「教育の島づくり」を目指す。口永良部島には、毎夏 20 名程の大学生が訪れ、その所属大学は慶應義塾大学を始め複数に及ぶ。現在 100 名程が暮らす口永良部島にとっては、人口の 2 割に相当する学生が夏期休暇を利用して口永良部島に学びに来ていることになるが、その関わりは未だ限定的で、学生が島で学んでいることが地域に還元されていないものと感じている。そこで、私たち慶應義塾大学口永良部島プロジェクトが中心となり、今回新たにご縁を持つ東京大学で環境政策を専門に教鞭を執る田中俊徳特任准教授とその学生、日本に国費留学生として学びに来ている東京外国語大学の留学生らを巻き込み、口永良部島において、若者世代（ここでは 20 代以下の子どもたちや若い世代と定める。）を対象としたそれぞれの専門分野からワークショップを実施する。この取り組みが「地域・大学両者が知見を教え合うプラットフォーム『えらぶ島大学』」に発展、定着することを目指し、口永良部島に大学の学びがより還元される環境づくりを行う。

#### ・事業内容

以前から開催を予定していた「えらぶ島大学」実施に向けて、慶應義塾大学、口永良部島本村区長貴船森氏、東京大学田中俊徳特任准教授が中心となり、よりたくさんの島民の声や意見が出て、これからの島の体制がさらに整っていくための充実した会を遂行できるよう、それぞれが調整を進めてきた。

口永良部島では、口永良部島大学（仮称）、口永良部島未来会議で島の子どもから大人まで全ての世代を巻き込み、島全体で口永良部島と向き合い、これからの島作りを関係者全員で考えていくという目的を果たすべく、上記した参加者に加えて、口永良部島出身の高校生、研修で島を訪れていた郁文館グローバル高校の教員と生徒、屋久島高校の生徒も共に、より充実した会にするための事前打ち合わせを重ねた。

本企画は約 50 名以上の方々にご参加いただき、とても充実した時間を参加者全員で共有することができたとともに、これからのことを全員で考えていかなければならない必要性も改めて見出せる機会になった。

本企画開催後は、口永良部島で毎年行われている祭り（港まつり、夏祭り）に開催前の準備から当日の出店までをお手伝いさせていただき、さらに島の方々と親睦を深めることができた。

#### ・事業責任者

長谷部葉子環境情報学部准教授

池田靖史政策メディア研究科教授

・連絡先

長谷部葉子研究室

〒252-0882

神奈川県藤沢市遠藤5322 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス 507

・はじめに

今回は、主に口永良部島大学（仮称）と口永良部島未来会議（口永良部島出身の貴船楓氏と久木山蓮氏が企画した島のこれからを考える島民会議。下記の活動内容の②で詳細説明。）という大きな二つのイベント実施に向けて、慶應義塾大学、口永良部島本村区区長貴船森氏、東京大学田中俊徳特任准教授、貴船楓氏（口永良部島出身で現在屋久島高校三年生）、久木山蓮氏（口永良部島出身で現在鹿児島工業高等専門学校四年生）が中心となり、準備や調整を行うところから始まった。口永良部島未来会議と口永良部島大学（仮称）の二日間の関連性というもの関係者は重要視し、この二日間どういった流れを作るかという念入りな打ち合わせも行われた。口永良部島では特に子どもたちに焦点を当てたワークショップや会議を実施し、そこを切り口として口永良部島全体を巻き込んだ形でイベントを遂行した。夏のフィールドワーク後、夏の活動で得た気づきや成果を ORF という研究発表の場で対外的に発表・発信した。

それを踏まえて、次の夏のフィールドワークに向けたプロジェクト活動と1年間の長期スパンで取り組む活動の構想を考えた。それについても最後に言及させていただきたい。

・フィールドワーク期間中の活動内容

①口永良部島大学（仮称）ワークショップ

口永良部島の子どもたちを対象にした、口永良部島大学（仮称）というワークショップを実施した。今回のワークショップは、口永良部島に訪れている大学・高校・企業・島側（本村区区長貴船森氏）・口永良部島出身の高校生（貴船楓氏、久木山蓮氏）それぞれの立場から口永良部島でどのような学習活動、研究活動をしていて、かつどのような組織なのか、どんな思いを持って島を訪れているのか、島と向き合っているのかを子どもたちに共有した。

②口永良部島未来会議

まずこの会議開催に至るまでの背景を言及したのち、内容について言及したいと思う。

この会議は、口永良部島出身の貴船楓氏と久木山蓮氏が企画・運営したものである。貴船楓氏が2017年に東京で開催された高校生未来会議に参加し、「自分でも何かできるはず」と志が高まったのがきっかけで企画に至った。

当初、屋久島で催されたエコツーリズム大会の際に本村区区長の貴船森氏が掲げた「教育

の島づくり」を聞いて、屋久島と口永良部島の教育的交流が少ないことを問題視するようになった。これからも「持続可能な島」にしていくためには若者が必要であり、そのためには若者ができることを考えることが必要であり、そのためには島民とともに口永良部島の未来を考えることが必要だと考えた。そういった想いと構想を持って形にしていく中で、その想いに賛同した久木山蓮氏も加わり、企画・運営・開催に至った。

内容として、島の子どもたちやその他の若者みんなで考えた、これからの口永良部島をもっとよくしていくための五分野（教育・産業・福祉・環境・人）のアイデアを島の大人の方々に発表し、参加していただいた大人の方々にその発表に対するフィードバックをいただいた。慶應学生は五つの分野のグループに分かれて入り、サポーターとして参加した。

### ③口永良部島未来会議第二部

口永良部島未来会議では、子どもたちの画期的なアイデアを大人の方々に発表し、フィードバックをいただく、という一方向のやりとりしかできていなかった。そこで、口永良部島未来会議第二部と称して、口永良部島の子どもたちだけでなく、島の大人たちももっと巻き込んだ意見交換の時間を設けた。口永良部島未来会議のアイデアを元に、口永良部島のこれからをざっくばらんに島民みんなで考える意見交換会を開催した。

#### ・フィールド期間中の活動成果

##### ①口永良部島大学（仮称）ワークショップ

このワークショップを通して、子どもたちだけでなく参加した全ての人が、それぞれの活動について知ることができる有意義な時間と貴重な機会を設けることができた。そして、口永良部島の子どもたちが日頃あまり触れることのないものに触れ、多くの新しい情報を得て、新しい学びを学び得ることのできる時間をつくり、共有することができた。これによって、しっかりとお互いに相互理解を生むことができ、横の繋がりが強固になったことで、若者世代同士での今後の協働活動を円滑に進めていくための土台を作ることができた。

##### ②口永良部島未来会議

島に関わる若者が口永良部島と向き合い、より良い島にして行きたいという想いの共有と相互認識ができた。それにより、今島が少しずつ良い方向に変化しているという共通認識を参加者全員で取ることができた。そして、多くの島民に向けて「島のこれから」を提示することで、島作りに参加する覚悟を示す場となった。

##### ③口永良部島未来会議第二部

参加した島民全員が参加者として双方向の意見交換、コミュニケーションを取ることができた。それにより、島民全員が島をもっとよくして行きたいという思いがあることを再認識するとともに、大人も若者も一緒にこれからの島を形作っていく体制を認識する機会となった。

#### ・考察と提言

島全体を巻き込んで意見を出し合う会を開催することで、口永良部島に関わる全てのひとが、これからの島というものをさらに意識するようになる良い機会になったと感じている。今回の成果として大きかったのが、「子どもたち（若者）」に焦点を当て、そこから多くの大人の方々を巻き込んで、島全体でこれからの考える機会を設けられてことだと感じている。これから具体的なアクションを起こしていくために最重要となる活動の基盤が、体制的にも関係者の意識的にもしっかりと構築できた。

2018年12月末には、関係者が口永良部島に集まり、次年度に向けた話し合いも催され、慶應学生もその中心メンバーとして参加した。

これからさらに熱量を持って、関係者全員が協力して少しずつ、さらに魅力溢れる口永良部島に成長させていく。その取り組みの中でも、慶應学生としての役割を認識して、プロジェクト活動に邁進していく。

最後に、夏のフィールドワーク後からこれまでの活動を通して考えた、慶應学生の2019年度夏期フィールドワークに向けた活動と1年間の長期スパンで見据えた活動の構想について言及させていただきたい。

#### ・これからの活動構想

これからの口永良部島プロジェクトの活動、大きく三つの軸で進めていくつもりである。一つ目が、口永良部島の対外発信を目的とした「離島キッチン日本橋店との連携事業」である。2018年4月、1ヶ月に渡り、口永良部島フェアを共同開催した。それ以来ほとんど関わりを持っていないが、本プロジェクトと離島キッチンの継続的な協働体制の構築が必要である。内容としては、1年間を視野に入れ、季節ごとに収穫できる口永良部島の食材を可能な限り離島キッチン日本橋店に送り、その食材を使った料理をその月の期間限定メニュー（今日のおすすめ）として提供していただくという事業である。口永良部島の食材が都市部で振る舞われることによって、口永良部島の認知度向上と同時に、対外発信にも積極的に取り組むことができる。

二つ目が、口永良部島の子どもたちを対象とした「寺子屋」である。今までのプロジェクト活動でも寺子屋は実施してきた。しかし、あくまで慶應学生と子どもたちの関わりでしかなく、一方的な学習支援にとどまっていたという現状がある。2019年の寺子屋は、“学校との連携”を大きな特徴としている。これまで連携していなかった金岳小・中学校の教員と連携をとり、学習支援型ではなく学校と連携したワークショップ型の「寺子屋」の実施に努め

たいと考えている。まだこの寺子屋に関しては構想段階である。これから学校側と意見交換を重ねながら、内容を有意義なものに詰めていきたい。寺子屋は2019年夏期フィールドワークで開催したいと考えている。

さらに、この寺子屋は慶應学生だけでなく、口永良部島で海洋研究を行なっている広島大学の学生やその他の専門分野を持っている若者もそれぞれの強みを活かしながら参加できるものになるはずだ。まずは慶應学生と学校との連携で実施し、そこから他の学生も巻き込んでいけるとさらに良い企画になっていくだろう。この企画を着実に遂行していくことで、本村区区長貴船森氏が提言した「教育の島づくり」に繋げていきたい。

三つ目が、口永良部島の子どもたちを対象として、海外との交流を図る「アートマイルプロジェクト」(参考：<http://artmile.jp>)である。アートマイルプロジェクトとは、自国と異なる国、地域の子どもたちと同じテーマのもと、それぞれの地域の課題や未来について考え、それを共有しあい、それぞれの視点から学びを深め、双方の思いを合わせた訴えをメッセージにし、その世界への訴えかけるメッセージを壁面に表現するというものである。

この活動を通して、口永良部島の子どもたちが今まで以上に口永良部島のことや世界のことを視野に入れて“世の中のこれから”を考えるようになり、かつ異国の同世代の子どもたちと関わりを持つという貴重な体験をすることができる。加えて、構想としてあるのが、口永良部島だけでなく、近隣離島も巻き込んで、このプロジェクトを遂行できないかということである。どの異国の地域と取り組むのか、近隣離島の巻き込み等も相談を重ねつつ、どうしていくのか見定めていきたい。このアートマイルプロジェクトは2020年3月頃までの長期計画プロジェクトである。

このプロジェクトも寺子屋と同じように、「教育の島づくり」に繋がるものになると考えている。この件に関しては、口永良部島の子ども会と相談の上検討中である。夏の期間を利用して、他離島からの企画への参加を視野に入れて、「口永良部島に学びにくる」というイメージを作りあげていき、そのイメージを他の地域にもさらに共有・発信していくことを目指している。そして、島外から学びを求めて人が島を訪れるというイメージを島内に共有することにも取り組んでいきたい。





2018年8月9日 口永良部島未来会議の様子



2018年8月10日 口永良部島大学（仮称）の様子